

エッセイ「プラレール」くなぜ子供は電車が好きなのか？

JRに乗り続け隊 友田博

まだ子供たちが小さかった時の我が家での話です。幼少の頃になぜか列車を好きになる子供たちは多いかと思いますが、我が家でも息子は幼稚園の頃から電車のおもちゃで良く遊んでいました。線路の仕事をしている鉄道員家族のある休日の風景です。

*

「仕事には、ある種のトラブルがつきものである。」我が輩は鉄道の土木工事を施工管理する現業区で仕事をしている。在来の線路と駅を道路と立体交差する、いわゆる高架化というものだが、その工事の担当である。

今日は、朝から事務所で現場の施工会社と打合せである。現地の地形と、設計図が合わないという。昨日、現地の測量をしていた時に気がついて、慌てて連絡をしてきたのだ。工期が差し迫っているので、朝一番の打合せをお願いしたいというものだった。朝一から、難しい問題は聞きたくないものである。

本社の担当者に連絡をとり、設計を行ったコンサル会社に問い合わせる。残念なことに、単純な理由から合っていないことが判った。どんな仕事でもそうだが、限られた時間の中で成果を出さねばならない。正式に設計をやり直す時間とはれない。ここは、状況にあわせての変更とする。構造物が一時的な仮設物ということで、やむを得ずという判断である。それでも最小限の計算は必要となる。

次に追加となる費用の点や、列車の安全に対し検討した結果を現場の長に確認を取る。「本社の了承が必要かどうか」ということも頭によぎるが、ここは現場長の裁量でいくことを決め、施工業者にはその日のうちに「GO」サインを出すことが出来た。

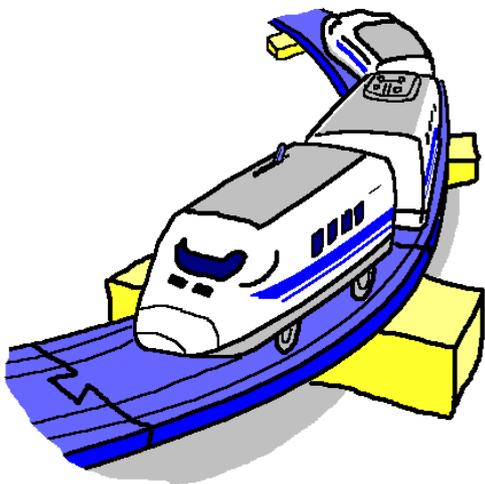
列車のお客さまや作業員の安全を第一に考えながら進める現場の業務は、とても緊張感の張り詰めた仕事である。冬場の夜間作業など、つらい時もある。しかし、工事の完了を迎え最後の線路切替を夜間作業で行い、一番列車が新しい線路を走るのを、自分の目で見守った時はとても充実した気持ちになれる。ここまでの苦労が全て報われるのである。安堵の気持ちとともに疲れも増してきて、早朝から眠りについた。

「はあくくっ！」

大きなあくびをすると、すぐに布団を抜け出した。

まだ朝の七時前。休日は、必要もないのに何故か早く目が覚める。平日は、ぎりぎりの時間まで寝て不機嫌そうに起きている我が輩を知っているかみさんがあきれている。自分でも確かに不思議だが、「まあ、いいか。今日は休みだ。」

早く起きても別に何をやるわけでもない。無意味に



時間が経ち遅めの朝食をとる。しかも、外はあいにくの雨。小さな子どもがふたりいるので、連れて外出するにはとても不利な条件だ。今日は、もうどこにも出かけないことを察知したのだろうか、もうすぐ五歳になるうとする息子が一緒にプラレールで遊ぼうと催促してくる。

男の子は、本当に電車が好きだ。三歳になる前から電車のビデオや機関車トーマスを好きになり、その名前を片っ端から覚えていくようになった。名前どころか、新幹線の車体の横に入っているラインを部分的に見ただけで、簡単に言い当てることに気付かされた時には驚かされたものだ。親の欲目もあり「この子は天才か？」と思っただけにしか能力を発揮しないことを、親はしばらくすると皆知ることになるのである。

「わかった、わかった、一緒に線路つくろう」

重い腰をあげて、徐々に増えてしまったレールの散らかった子供部屋へと向かった。

「お父さんも子どもの時に遊んでいた四十周年のプラレール」というコピーで大々的に宣伝を繰り返すこのおもちゃは、今日までにおとなの我が輩も驚くほどの進化をとげている。線路は立体的に組立てるものから、リモコン操作が出来るものもあるし、車両の種類も700系新幹線などの最新型列車から、機関車トーマス、ポケモンなどのキャラクターものまで実に様々だ。中にはおしゃべりをするトーマス機関車もある。

父親が「線路をつくる仕事をしている」と単純に、また幼いなりに理解している息子は、プラレールの線路をつくる時は必ず、我が輩に相談してくる。

「ここから曲げて行くと、あそこにつながるだろ」とか「まっすぐなレ

ールを二本持つて来て」と、へたすると実際の仕事よりも的確な指示で息子に指示をする。

仕事でも、家の中でも線路を造る作業をしていることを冷静に考えると、とても不思議な感覚になる。おもちゃであろうと、自分が作ったレールの上を列車が通って行くのを見るのは、とてもわくわくするものである。おもちゃのプラレールはレールの端にある凸と凹の溝をはめれば良いだけの構造となっている。土木関係以外の読者の方には悪いが、専門用語で言わせてもらおうと、『とってもすばらしいプレキャスト工法』ということになり、作るのがとても簡単なのである。

しかし、遊びにもトラブルはつきものである。

息子が「レールがつながらない」という。あと少しで線路がつながるところなのに手持ちのレールが足りなくなってしまったのだ。我が家には、厳しい目で家計を取り仕切る女性の財務大臣がいて、無駄な支出、つまり我が輩が不必要にレールの買足しをしないように見張っているのである。不要と思われる公共工事を限りなく続ける我が国の政府に採用してもらおうよう、推薦したいくらいだ。

「残念だけど、ちょっと小さくしよう」と線路の計画を変更する。これが本物なら用地買収から、地元の利害がからんで問題は泥沼化するところだが、家の中の出来事なので難なく解決出来た。

今度は橋の上を走っていた機関車トーマスの仲間「力持ちゴードン」が突然脱線して橋の下に落ちる。これも財政的な問題に関わることだが、橋を支えるまともな部品を買わずに、ブロックなどの他のおもちゃで代用しているので、しばらくすると壊れるのである。「やっぱり日頃の検査と補修が大事だな」と構造物を造る事よりも、これからの時代は維持管

理の仕事の重要性を再認識する。これもゼロテープを使って、なんとか持ちこたえるように補強した。

しかし、あまりにメンテする箇所が増えて来ると「この列車動かないんだけど、壊れちゃったのかな」と悩む息子に対し、つい面倒くさくもなり「それは車両故障だよ。お父さんは担当じゃないから治せないよ。マコちゃんのお父さんにでも頼んだら」と同じ社宅の友達の車両担当のお父さんを引き合いに出しそうになる。よくある縦割りの社会に陥ることにもなってしまう。

鉄道にとつての最大の天敵、自然災害。だけは部屋の中だから大丈夫かと思えば、そうは問屋が卸さない。最近二歳の誕生日を迎え、「兄妹の性格が逆だったら」とたまに感じるオテンバ娘が部屋に乱入して来た。

ゴジラのようにズンズンと線路に迫り、近所では「仲良しの兄妹ですわね」と評判で、娘が大好きなはずの兄ちゃんが作った線路をわしづかみにすると頭の上まで持ち上げて、あつという間に寸断する。これは大型台風以上の災害である。「ダメーッ！」と幼児特有のカン高い声を息子があげて、今日もまた兄妹喧嘩が延々と始まるのである。

仕事でも家庭でも、楽をして過ごすことはなかなか出来そうもない。



この春、息子は大学を卒業し独り立ちを果たしました。一時は父親と同じ鉄道会社に就職するのかどうかを家族で冗談交じりで話していた時もありました。私と私の父親がそうだったようにです。結果として息子は専攻した学問で鉄道以外の分野に就くことになり、鉄道員四代目は誕生しませんでした。

鉄道の現状は残念ですが、各地で計画が進む整備新幹線と並行在来線の問題、豪雨による自然災害後の線路復旧の費用負担、地方ローカル線に代表される赤字路線の廃止問題などの課題が山積みとなっています。さらに昨今のコロナ禍による利用者減少により更なる低迷を余儀なくされてもいます。

おもちゃの世界のことで面白おかしく書かせてもらいましたが、鉄道における事故はあつてはならないものであり、弛まぬ安全対策も求められます。線路保守の担当者は台風が接近すれば、我が家のことは妻にお願いして線路の点検を優先するために家を空けがち、ひとたび人身事故等が発生し列車が止まると真夜中であろうと現場に向かい対応も迫られます。

私自身も息子が同じ鉄道員の道を選ばなかったことについて残念な気持ちとほっとした気持ちが半々というところでしょうか。今ほどの世界で働いても大変だと思いますが、息子には自分の信念をきちんと持って頑張ってもらいたい。そして、これからも子供の頃のように、時々は列車に乗って楽しんで欲しいと思います。

※平成十三年時点における数値

*